注文籠		文書摘要
金		
金		
金		
金		
金		
金		
小計	金	裏書
金		合其他注文若干
金		
金		
金		
金		
郵税		
運賃		

書目冊數

書日冊數

切取線

◉紅葉山人著述目錄

伽羅枕
武内桂舟畫
實價卅五錢
郵税六錢
紅葉子數年の著作六十餘種に及ぶと雖も、長篇本書の如きは未だ有らず、蓋し金剛石の徑一寸なるもの乎。

戀之病
無名氏畫
實價十錢
郵税四錢
夫婦喧嘩より一轉して戀病者を治する醫者出でぬ行文已に凡脫趣考甚だ奇警一讀笑ひ死せざるものなし。

冷熱
富岡永洗畫
實價三十錢
郵税六錢
寒夜痴男を氷雪の中に苦めし美人は、炎熱の中に煩悶せしめらるゝの奇談にして活殺自在底筆鋒は讀者をして生死の敢に彷徨せしむ。

青葡萄
渡邊省亭畫
實價三十錢
郵税六錢
著者身上の厄難を一種獨創の記錄躰に綴れるものなり人其妙を稱すれば恍として身其境を疑むが如し。

紅鹿子
武内桂舟畫
實價十二錢
郵税四錢
此書夏獲關東五郎の二篇より成る横開杭本にして手枕の友としてよし。

俳諧名家選
四六版美本
實價廿五錢
郵税四錢
今や俳諧復興して氣運天を衝くの時本書出づ實に斯道の指南車として先進後進の欠く可らざる良書なり。

なにがし
鈴木華邨畫
實價三十錢
郵税六錢
本書は豫備兵義血俠血の二篇を收めたり、若夫卷を繙けば想に鬼氣ありて毛髮に逼り、文に異彩を放ちて顏色を照らさん。

心之闇
富岡永洗畫
實價二十錢
郵税四錢
本篇は紅葉山人が其平生草を打ち蛇を驚かすの棒を投じ、利刃一揮直に深淵に投じ去りて、須臾波上に凝紅を浮ぶ底觀あり、附錄遊水又頗る情致あり。

笛吹川
三島蕉窓畫
實價三十錢
郵税六錢
一館男兒の性行と幼女の裏情を說くの間頑乎石の如き沒情漢を點綴したり筆端輕々描きさり描き來りて圓轉たるもの題して笛吹川といふ。

隣之女
武内桂舟畫
實價三十錢
郵税六錢
隣の女は實に隣の女を解剖したるなり口畫の美人は篇中の文字と相映じて綺艶樓閣卷首に寧齋氏の題詠三首を載せたれば一層の彩を添へたり。

浮木丸

武内桂舟畫　實價三十錢　郵稅六錢

本篇の骨子は賤民の一子九死の命を全うしてあくまでも一城の主となるの經歷なり其妙は更にもいはず。

夏小神

無名氏畫　實價廿五錢　郵稅四錢

覆面の武士あり辻斬を試む、刀利魔の如く手練殆ど神なり、殪るゝ者夜々幾百人、而して後影の捉ふ可き無く、天下爲に騷然たりし匿名出版の奇書即是なり。

紫琴

水野年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

「紫」は心配性なる醫學生が數度失敗の上漸く及第するの件にして頗る人情の美を發揮したる紅葉山人の筆、「琴」は江見水蔭子の附錄短篇なり。

不言不語

鈴木華邨畫　實價三十錢　郵稅六錢

環とよべる一美人が一種不可思議の情實を秘める笠原家に仕へて其不言不語の情實の爲に又自ら不言不語の理に心を馳せ其秘密を探らんとする奇談なり。

片ゐくは

省亭年方合畫　實價三十錢　郵稅六錢

片腦は、何者とも知らず、何處より來たれりとも分かず、忽然として深夜に門を叩きし一女子が好顏の特點なり。

三人妻

武内桂舟畫　定價五十錢　郵稅八錢

お艶は歌麿の美人の如く紅梅は北齋の妖婦の如くお才は豐國が筆の傳あり、妬むもの驕るもの謹むもの、夫れ〳〵の特性を寫して一帖の活錦繪を展ぶるに似たり

二人女

武内桂舟畫　實價廿五錢　郵稅四錢

畫心描思の筆、銷魂斷腸の秋、紅葉山人獨擅の技此編に於て盡せりと謂ふべし。

紙きぬた

武内桂舟畫　實價廿錢　郵稅四錢

寸珍の冊子四種の好文章を萃めて家々案上の清玩に足る、製本は袖珍の美本、外出車上の往來に携帶頗る便なり。

多情多恨

本書は紅葉山人近來の大作なり、多情の男兒多恨の女、豪油の如き情海に浮沈するものを說く筆々輕妙讀來て卷を掩ふに忍びず。

男心

クロース製　實價廿五錢　郵稅四錢

男心は東家西家の一小茶話に過ぎずと雖も披讀一遍せば、筆々傷まざるなく、悲まざる無く、言々愁へざるはなし。蓋情の最も切にして、女の最も至れるものの乎。

命之安賣

文學世界之內　實價金八錢　郵稅二錢

七十二文命の安賣、表題已に奇あり、其趣味の味ある蓋宜なり、一篇の小冊子、薩摩武士の面目を曝露し來る

此ぬし

新作十二番之內　實價金卅三錢　郵稅共

無情木石の如きの男兒、窮寇たる美人に戀はれて、然も鐵腸愈堅固なり、偶々男兒吹矢筒の慘事あり、心を驚へして美人と婚す　妙趣溢るゝが如き好小說。

新色懺悔

聚芳十種之內　實價十一錢　郵稅四錢

美人を描き情事を說く、紅葉山人の筆の如く妙なるはなし、先生今其微妙なる筆端を弄して、巧みに描き出す新色懺悔、其外題を見て其趣きを知るを得へし。

饗庭篁邨著述目錄

笠之露

富岡永洗畫　實價三十錢　郵稅六錢

篁村子が輕妙の筆にて人情の極微を寫せるもの實に氏が近代の傑作にして空前絕後の佳什なり。

きせ綿

三島蕉窓畫　實價二十錢　郵稅四錢

輪柳帳中說法の二篇、前者は眞率後者は輕妙。

凧之糸目

久保田米仙畫　實價二十錢　郵稅四錢

凧の糸目は篁村翁の傑作數種を集む輕妙六花を飛ばすが如きもの婉曲柳絮の亂るゝが如きもの妙趣究りなし

勝閧

新作十二番之內　實價金卅三錢　郵稅共

これ篁村氏の時代小說、春風駘蕩たる花の朝に、密雲天を蔽ひ來りて、颯爽たる秋の風の榜を吹くに似たり、窮寇たる薄命の美姫、一搏を仕す豪雄の武人、彼は老松の月に嘯くが如く、是は雪虐氷肌の畫るに似たり。

有馬筆

菊版美本　實價三十錢　郵稅六錢

鬼ゐる所三篇、如意寶球は輕妙に鷄鶴石は謹則的なり富貴自在は志士梅田雲濱を面白く敍したるもの。

雪達摩

聚芳十種之內　實價十一錢　郵稅四錢

非々たる六花は鵝毛の散亂するに似たり、積來つて深さ三尺、お山の大將五人十人、此雪を轉ばして達摩大師を作る、大師巍然として其鐵鬼を睥睨するも日出るまでの命なり。

むら竹

合本全五冊　實價一圓二十錢

むら竹は篁村子多年の傑作を網羅したる四六版の美本なり、蓋し小說なるもの有りてよりの驚書なるべし、短篇長篇殆ど數百種委しくは合本の部に在り。

◉村井弦齋著述目錄

小說家　小說　全二冊　鈴木華邨畫　實價四十錢　郵稅八錢

小說家小說家を作る、盡んぞ尋常一般の小說ならんや、本篇主人公筆の舍奈麻利は蓋し何者ぞ。

鷲の羽風　水野年方畫　實價卅五錢　郵稅六錢

猛鷲天を拂つて下る彈丸一發之を洞す者は誰ぞ全篇の骨子蓋とくれ寓意的の冊子其一美人を爭ふの痴漢は蓋し何者ぞ一讀案を拍つて思ひ央に遇ぐるわちん。

血之涙　富岡永洗畫　實價三十錢　郵稅六錢

大尉金石某血精花の如し、一朝事あり異域に眞死す、弦齋居士戰後の傑作遺族雲を隔て本國に流離す。

櫻の御所　全二冊　富岡永洗畫　實價八錢　郵稅八錢

相州櫻の御所三浦與岩寺の戰爭を說く小櫻姫の武勇及び兄の傳男子あり、一は海軍に一は陸軍に、相携へて國難に當り、危大國を擊破したるの偉勳を以て、皇軍歐洲を蹂躪す、其快いふべからざるなり。

朝日櫻　全二冊　鈴木華邨畫　實價八錢　郵稅八錢

神奇靈鳩を射つて曹司佳人を得才子反逆の毒手を避けて他邦に流過す鳩還の姫が哀れに悲しき物語義弘が娘の不倫千古に絕したる千變萬化の筆端鬼神も爲に驚く

衣笠城　小林永興畫　實價廿五錢　郵稅六錢

源氏の興亡鎌倉の覇業忠臣義士等の事蹟を收めて三浦家の興廢を說きたるもの櫻御所と並び誦するに可なり

譽の兜　富岡永洗畫　實價廿五錢　郵稅四錢

書を作らは當に世學を益すべく小說を編は當に人心を高うすべしとは著者の理想なり本書は大阪の勇士木村長門守重成を此想によつて詳傳したるものなり。

寫眞術　小說　富岡永洗畫　實價廿五錢　郵稅六錢

寫眞術は二青年と處女の立姿を、其心の底迄映しとりて愉絕快絕の好小說なり、插畫は特に石版網版にて精巧を極めたれば、實に錦上花を添るといふべし。

小弓御所　鈴木華邨畫　實價三十錢　郵稅六錢

小猫　小說　富岡永洗畫　實價五十錢　郵稅十錢

房洲鷹の島の奇少年、美人の贊助を得て始めて東都に學ぶ、政黨の秘密、要路大臣の苦衷、片々たる浮世の潮流にもまれたるの少年は、他日米國の勇將軍。

沖之小島　富岡永洗畫　實價廿五錢　郵稅六錢

朝鑑姫の貞操、飯野六郎の奸邪、老雄の忠實、本書は凡てこれ邪と正との戰にして、忠と不忠の修羅場なり

◉櫻癡居士著述目錄

秋之夕暮　三島蕉窓畫　實價廿五錢　郵稅六錢

義氣に富みたる男兒あり、孤兒の愚にして家產を失なひ、毒婦惡漢の掌中に歸したるものを救はんとして、數次身を危地に陷る、讀んで以て家庭の教草となすべし。

櫻痴放言　三島蕉窓畫　實價三十錢　郵稅六錢

櫻痴放言は居士の大法螺なり鍍金紳士似非貴婦人等の假面を吹き飛さんとす峯入の山伏も又三舍を避けん。

浮世見物　水野年方畫　實價廿五錢　郵稅六錢

居士の活眼洞察測す處なし僞紳士僞豪傑は殆んど本書に於て其肝膽を破却せられたるものといふべし。

豐島之嵐　筒井年峯畫　實價三十錢　郵稅六錢

著者我國現時の新劇に完全の脚本無きを憂ひ乃ち此作あり彷彿として活劇に接するが如し。

山縣大貳　富岡永洗畫　實價三十錢　郵稅六錢

幕末勤王の傑士山縣大貳竹內式部等の事蹟と其計畫とを小說体に描出したるものなり。

櫻癡新編　武內桂舟畫　實價廿五錢　郵稅六錢

亂初右衞門は凶暴豺狼の如き巨盜の半生を說き淨玻璃は地獄の鏡に譬へて紳士紳商の內幕を穿つ櫻痴新編の名蓋し空しからざる新案の著述なり。

夢か夢中　渡邊省亭畫　實價廿五錢　郵稅六錢

多額納稅議員が法律家新聞屋藝妓仲買人等に誘惑せらるゝ狀を輕々淡々映し來りて然も人膓を穿つ事剴切。

嘘八百　三島蕉窓畫　實價廿五錢　郵稅六錢

議員撰擧の內幕魂膽を滑稽口調もて諷刺的に書做したるもの文章輕妙趣向奇絕噴飯に堪へざるの諧謔頗る多く明治年間所謂志士なるもの、腹中をえぐりて、彼の輩をして顏色なからしむ愉絕快絕

伏魔殿　水野年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

居士五十年の經歷社會各般の內幕を屠龍搏虎の筆に上すもの前篇を怪物屋敷となし後篇を嘘の世の中となす僞紳士藝妓幇間田紳の輩咸く活現して生氣あり。

春雨傘

渡邊省亭畫　實價三十錢　郵稅六錢

昔時の俠客曉雨が佳人溝雲と相遇ふたる事蹟を記したるもの流暢の筆體綿の情宛然當時の光景を見るが如し

天竺一德兵衛

小林永興畫　實價三十錢　郵稅六錢

俠客と呼はれ海賊と唄はれし當代の一人傑は大隅の邪智安房の義俠柳生酒井の活眼となり御朱印船の破約となり一編の波瀾收まる

◉ちぬの浦浪六著述目錄

三日月

渓六自畫　實價廿錢　郵稅四錢

三日月は渓六氏が文壇に雄飛するの楷梯たり、打ては轟く六尺の渾身、まかりつんでた大文章、一時を風靡せしめたる珍書なり。

井筒女之助

省亭年方合畫　實價三十錢　郵稅六錢

大唐畫の美少年環若狹はこれ當年の井筒女之助嬋娟たる容顏は妖艶にして度量淵遠奇怪の勇士が群傳なり。

奴之小萬

渡邊省亭畫　實價三十錢　郵稅六錢

小萬は女傑なり父の仇を報じ母の讎を殺す其間柳里恭の風流小萬の韻事又賞するを要ひず。

鬼奴

武內桂舟畫　實價廿五錢　郵稅六錢

鬼奴あり窮寇婦女の如き主に使へて忠實、權威に曲らぬ餓骨を主の爲には屈して無念を忍ぶ、其可憐なる處女の衷情に泣く鬼奴頗る涙もろし。

破太鼓

水野年方畫　實價廿五錢　郵稅六錢

これ當年の山鹿甚五左衛門、打ては轟く太鼓の音は如何に江湖を驚倒せしめたる、愉絕俠絕の大傑作なり。

夜嵐

武內桂舟畫　實價廿五錢　郵稅六錢

一編の骨子盲目の悪漢妖婦の奸欺にして彼の毒は蛇よりも忍ろしく之の悪は蛞蝓の害にも勝る然も尙毒婦一點の戀情あるの處此書千金の價値あり。

深見笠

武內桂舟畫　實價廿五錢　郵稅六錢

深見十左を主として寺西閑心白輿三衛藤堂新七北條安房等を客とし更に一枝窮寇の花を加へたる一部の小說天下無類のすぐれものが半生の勝敗は著者獨得の長技

髯之自休

水野年方畫　實價廿五錢　郵稅六錢

深見笠は前編にして本書は其後篇なり一氣呵成のもと前後百回の大編を大成したる渓六氏の大筆、勇猛にして然も可憐なる靡貞識始めて完璧たり。

浪六漫筆

武內桂舟畫　實價三十錢　郵稅六錢

小說あり實事譚あり雪月花以下嘆むる所數十種遊女乞食溝口與一石川五右衛門音曲天女華尤も面白し。

安田作兵衛

渡邊省亭畫　實價三十錢　郵稅四錢

明智が三羽烏の一人右大臣に鎗をつけたる勇士死して亂臣賊士と唄はれしが今や一管の鑓鉾に吊はれて可憐の老武者とはなりぬ。

たそや行燈

渡邊省亭畫　實價三十錢　郵稅六錢

たそや行燈の影暗き處、鬼が出るか佛が出るか、浮世の外の色深き處、俠骨稜々たる快男子あり。義氣凜烈たる俠美人出づ、快話軟語人をして夢中に彷徨せしむ

後の三日月

水野年方畫　實價二十錢　郵稅四錢

渓六子の傑作三日月の後篇なり篇中の人物凡て前篇より來りたり、前篇の美人已に老ひて新來の主公意氣豪なり、併せ讀めば其快限りなし。

千の利休

學園花壇の內　實價廿五錢　郵稅六錢

狂暴虎の如く、怒つて我佛を碎く豪放の興四郎、生家を放たれて江湖を流渓するの間鍬を揮つて武人を殺す、父其暴を憂ひ身を殺して子を諫ひ此怪見乃ち千利休

◉塚原蔦洲著述目錄

おあき

水野年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

日出國の旗幟天に冲するの處一美人一兵士あり情緒纏綿、時に狐戾の老婆を現はして其間を點綴す妙趣無限

最上川

水野年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

兄妹仇敵を求むるの間悪徒の海言語に絕す偶ま飛箭雨あり仇氏を仆す天道は情なきに似て然も有情。

山中源左衛門

武內桂舟畫　實價卅五錢　郵稅八錢

滿身是れ勝の美少年は豪氣不屈或は速水の志に泣き或は友の切情に迫られ更に振切りて關東方に赤心を示したる彼の一代描き出して筆々眞にせまる。

淨瑠璃阪

小林永興畫　實價三十錢　郵稅六錢

義人烈士孝子忠臣忽にして劍聲忽にして軟語淨瑠璃阪の復讐は當年江都を驚かせし大快話なり。

北條早雲

武內桂舟畫　實價四十八錢　郵稅十錢

當年の新九郎長氏、關八州の草木を風靡して、北條九代の覇業を開く、英雄躍々として紙上に躍あり。

◉坪内逍遙著述目録

桐一葉　鈴木華邨畫　實價卅八錢　郵税六錢

英雄の末路眞に哀れむべきかな豐公死して天下亂麻の如し市の正且元孤忠幼主を補佐すと雖も赤誠容れられずして空しく英魂を茨木の里に埋む好悲劇これなり。

文學其折々　紙數千餘頁　實價金壹圓　送料二十錢

氏が近來の作にかゝる論文批評諷刺滑稽等各部類を分つて集輯せるもの其東西の作家を評するに至りては實に以て明治思潮の干滿を測度するに足らん。

春の舍漫筆　實價三十錢　郵税六錢

逍遙氏著はす處の三種を載す第一は諷刺的物語にして第二は文學評論第三は西洋の逸話なり

梨園之落葉　小林清親畫　實價五十錢　郵税十錢

逍遙子が梨園の子弟に望むところの意見之を論じ之を敎へ誘導開發深く斯道の爲に盡しなる者本書是なり。

牧之方　渡邊省亭畫　近刊

北條時政の室、此人をかりて當代の醜徴を叙せるもの

◉鷗外漁史著述目録

水沫集　實價六十錢　郵税十六錢

理木の哀れなる水泡記の奇なる盜俠行の勇ましきおもかげの優美なる舞姫の面白き、鷗外漁史純潔の詩想は殆んど溢出して本書に充てり。

つき草　紙數六百頁　實價壹圓廿錢　郵税二十錢

本書收むる所のもの其識や遼其文や雄一の輕薄文字わるなし誰かうつろひ易き花の色なりといふ者ぞ。

◉忍月居士著述目録

蓮之露　武内桂舟畫　實價三十錢　郵税六錢

口繪に寫せし半襟幹の美人は市川如喬といつる當世に有りては只理想にのみ有り得べき女優にして進の露の主人公なり明錦蝙蝠俄分限の二編をも載す。

惟任日向守　三島蕉窓畫　實價二十錢　郵税四錢

本能寺溝深幾尺、まだ東雲の靄破りて、颯と棚曳く一旒の旗は桔梗の紋所、俺は日向めといふ間も遲し、萬籟俄かに起りて鬼神を倒す、英雄の胸中人知らず、爰に忍月居士有り、筆を揮つて爲に寃を雪くものの是本書

夏祓　鈴木華邨畫　實價卅六錢　郵税六錢

若殿樣の可笑しき、戰話斷片の勇ましき、詠軍曹の哀れに面白き、筆端走る所電逝これに乘ず。

黃金村　聚芳十種の内　定價十二錢　郵税四錢

黃金村は聚芳十種の内傑作を以て世に蠶きたるものなり、忍月居士の筆、奇嶠艶麗、時に清風林間に起り、夜雨蕭々として杜鵑空を掠むるに似たり。

露子姫　渡邊省亭畫　實價廿錢　郵税四錢

忍月居士が處女作として文壇雄飛したるの始めなり所謂戀愛小說の祖型なるもの本書出て世に戀愛小說を作るの作家筆も又ヨる能はざるに至りぬ。

辻占賣　文學世界之内　實價八錢　郵税貳錢

淡路島通ふ千鳥の戀の辻占と呼歩く可憐の小童は一夜權門多涙の夫人に逢ふ、小童知らずと雖も夫人は乃ち其母なり、一讀涙欄干。

◉遲塚麗水著述目録

南蠻大王　百家選之内　實價十二錢　郵税四錢

これ百花選中の大王、麗水氏雄健の筆

陣中日記　米仙米齋畫　實價三十八錢　郵税六錢

著者筆を戰せて軍に牙山平壤に從ひ彈丸雨飛の間を奔走して得る處あり歸來戰況風俗を叙する者本書これ也

牛月城　三島蕉窓畫　實價三十錢　郵税六錢

楠氏の餘黨父祖の遺訓を以て一點の忠魂死すとも渝らず一美人の身として回天の大義を企て功業未だ半途ならずして遂に仆る其間の消息頗る人をして感奮せしむ

大和武士　水野年方畫　實價三十錢　郵税六錢

臺灣三角湧陣沒の勇士櫻井特務曹長以下三十五士を經とし泣々愛兒を殺して國と共に亡びんとせし吳德福を絆として結構せるもの滿眸鬱く鬱くるるの思ひあり

さんざ時雨　富岡永洗畫　實價三十錢　郵税六錢

讒者の舌は劍の如くにして、爲に江湖に流浪する清川右内、優にやさしき娘の雪枝、老僕の忠に死せんとする、俠雄の義に戰ふ、一篇の波瀾人をして泣かしむ。

照日之松　水野年方畫　實價三十錢　郵税六錢

亭々たる孤松天際を凌ぐの慮剛風屢ば侵せども節操尚凜たり以て士の行に比すべし藤中納言の忠、豐島泰秋の義大推和尙の勇等本書の勇壯快究りなし。

月夜鴉

富岡永洗畫　定價三十錢　郵稅六錢

麗水子か幾多の日子を費やして新作せるもの氏の錦腸を溢れたる詩片は暗香の浮揺するが如く紙上にみつ。

◎江見水蔭著述目錄

鎌わぬ一坊

富岡永洗畫　實價三十錢　郵稅六錢

世をも人をも鎌はぬ坊、六尺有餘の骨格逞ましく、弱を扶け强きを挫く、其怒濤船を覆へさんとするの時、足を舷にかけて、一睨海若をひそましむ。

水之聲

年峰年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

岩屋城の奇なる鋭の浦の面白き短篇數十種盡くこれ金玉の聲あり水の聲の淺々として妙味掬めどもつきず。

水車

武内桂舟畫　實價三十錢　郵稅六錢

兜の星彫燒山越旅雷師等を始めとして水蔭子の著數種を收む紙數二百有餘貞口書は淺舟子の丹青になりぬ。

野試合

文學世界之内　實價八錢　郵稅二錢

野試合は勇氣勃々たる少年の其野試合に偉功を立つる物語少年子弟の讀本として恰好なり。

◎三昧道人著述目錄

塙團右衛門

省亭米僊合畫　實價三十錢　郵稅六錢

武士となり涙入となり乞食となり禪僧となり時に或は折花攀柳の痴漢たらんとし時に或は裁月縫雲の詩人を學ぶ其豪快俠烈の奇男子は躍如として紙上を横行す。

鬼一口

武内桂舟畫　實價廿五錢　郵稅四錢

關白秀次が淫縱の有樣を小說に敍したるものにして篇中祇園の俠妓龜が醉態を寫せる所最も巧妙。

鳩の浮巢

筒井年峰畫　實價二十錢　郵稅四錢

名妓鳩照の傳にして俠客信傳の俠義紙屑買の狂亂名妓の情夫何某の戀話等其面白き事響ふるにものなし。

目黑物語

渡邊省亭畫　實價三十錢　郵稅六錢

目黑の里の桑の井が娘と道心堅固なる一美僧との物語筆々輕妙にして句々玉の如し並し山人得意の傑作。

かつら姫

新作十二番之内　實價郵稅共　金三十三錢

妖艶なる桂姫、抑も誰家の女ぞ、中世亂麻の世に處して、半世の偉業を企つる女將軍。

◎正直正太夫著述目錄

見切物

武内桂舟畫　實價三十錢　郵稅六錢

見切物と雖も一山百文と申しては本屋冥利に悉る事あるべし仍て實價卅錢を申受く郵稅は六錢なり。

油地獄

菊版美本　實價二十錢　郵稅四錢

これを讀む者はいゝ子讀まぬ者もいゝ子讀むと讀まぬは御勝手なれど買ふと買はぬは御勝手にあらず是非一本を購ひ玉へと慾の無い書肆が申す。

反古袋

森川蕉亭畫　實價廿五錢　郵稅六錢

作家の爲には買はずとも讀め書肆の爲には讀まずとも買へ」と著者は自ら序したり、之れ當年の大傑作。

かくれんぼ

文學世界の内　實價八錢　郵稅二錢

正直正太夫氏が輕妙なる艶筆を弄して、文學世界に一段の光彩を添えたる傑作、試に一本を購ひ玉へ。

◎眉山人著述目錄

柴車

武内桂舟畫　實價二十錢　郵稅四錢

「かゝり舟」の波に驚き「撫子」の露に咽び「潢潼」の月に色めきたる句々悉く清貧の價を語るに難からず。

蔦紅葉

武内桂舟畫　實價二十錢　郵稅四錢

艶冶なる妖婦あり純潔の少女を弄ぶ痴漢の愚冶郎の狂筆々活動せざるなし三年味噌に至りては昨是今非の世態を描寫し悉したるものなり。

綱代木

武内桂舟畫　實價二十錢　郵稅四錢

駒揃大奮然志を決して互ひに方針を定む二人東西に相隔つと雖も後年の會合果して如何本書は實に氏が理想を練り酷苦勵精始めて成るの好傑作なり。

二枚袷

武内桂舟畫　實價二十錢　郵稅四錢

白藤は宛轉たる情思を點出するもの晩機は着想高潔碑韻漂渺たり二編を合して二枚袷と題す、口書は桂舟子の艶筆書中の人もの言はんとす。

大村少尉

水野年方畫　實價廿八錢　郵稅六錢

獻傷艦と共に沈沒したる勇士の遺子にして功を日清の大海軍に植つ其勇武快活なる物語、時に窮窟たる淑女を出して錦上花を添えしむるの趣きあり。

◉廣津柳浪著述目錄

萩桔梗　武内桂舟畫　實價二十錢　郵税四錢

眉山の繊穠なる小波の輕妙なる、兩者の得意なるものを合せて本書となす、乞ふ讀者讀んで甲乙を判ぜよ。

五枚姿繪　富岡永洗畫　實價卅五錢　郵税八錢

才人新太郎を主として、お霜お葉お房等三美人の胸中を描出す通篇三百二十一頁の大冊。

一人娘　筒井年峰畫　實價三十錢　郵税六錢

一美孃あり一痴男あり、痴男美孃に戀着するの間好夫妖婦に欺かれ殆んど一家を沈淪せしめたる物語。

段々染　水野年方畫　實價三十錢　郵税六錢

お捨お房お光三女が性情を說く三女の性情境遇によつて異なれる處奇談快說頗る多し。

異り種　鈴木華邨畫　實價卅五錢　郵税八錢

本書は某國公使の遺女お英なるものを主人公となす、お英の母は乃ち洋妾なり、擧止輕躁にして操行治まらず、お英も又遊治郎に誤まられて坎坷淪落する一慘話。

◉蓮山人著述目錄

鬼車　松岡緑芽畫　實價五錢　郵税二錢

金髮光明の貴公子武を戰はし術を較べて悉く勝ち三美人を掛て無上の尊位を極む凡て之れ妖怪の愚惑なり。

友仙染　水野年方畫　實價二十錢　郵税四錢

夫れ着物にも他所行と不斷着とある其又不斷着にも裏と表があるさりながらこれ計りは掛直の無い友仙染花も實もある染草は新發明の專賣品。

燒火箸　渡邊省亭畫　實價三十錢　郵税六錢

本書は蓮山人が平生其能く幼女少童を寫すの筆を投して更に奇警輕妙の長篇を作りしもの燒火箸の題已に奇

逢合傘　松華合作　實價三十錢　郵税六錢

牧むる所二篇曰く元祿笠曰く糸遊、前者は懷婉に後者は嬌艷に、忽にして清風、忽にして疾雷妙味極りなし

かたな糸　文學世界之内　實價金八錢　郵税二錢

かたな糸をあなたとなたによりわけたる蓮山人の運筆其可憐なる物語を見よ

◉幸田露伴著述目錄

有福詩人　渡邊省亭畫　實價三十錢　郵税六錢

本篇添るに伽羅物語好四果書生西人あじの一節の四篇を抄てす文は盤土珠を轉ばすが如く着眼往々人生の眞理を看破し哲理を謳歌したるの文字少なからず。

葉末集　小林永興畫　實價廿五錢　郵税四錢

葉末集は露伴子が著述中の傑作數種をあつめたるものなれば今更喋々の辨を須ひず。

新葉末集　小林永興畫　實價廿五錢　郵税四錢

新葉末集は葉末集と共に伴せ讀むべし彼は春花の妍をきそひこれは秋月の美を弄ぶ。

戀の俘　渡邊省亭畫　實價廿五錢　郵税六錢

戀の俘は彫刻師某の物語にして露伴子が近著中の白眉なるもの其想や神其文や妙。

七變化　藤芳十種の内　實價十二錢　郵税四錢

七變化は三味道人の戀の重荷と共に藤芳十種卷の七しめぬ趣向の奇拔なる表題に背かず。

◉山田美妙著述目錄

新太平記　久保田米仙畫　實價二十錢　郵税四錢

本書は深刻の觀察を以て居利直義を評註したるもの彼の心事は本書によりて始めて明快。

猿面冠者　文學世界之内　實價金八錢　郵税貳錢

猿面の英雄尾州中村を起りて天下を掌握す本書は其胸中を穿ち盡したる小冊子彷彿として古英雄の像を見る

やたらじまは　藤芳十種之内　實價十二錢　郵税四錢

やたらじまは美妙齋主人が傑作なり潮命の美人才子の邂逅より始まりて一遍の波瀾妙趣交々起る

教師三昧　新作十二番之内　實價郵税共金卅三錢

女學生女教師が内寨をあばいて、其擬行を天下に傳ふる一種眼刺的の大文字。

新式節用辭典　紙數七百頁　實價四十八錢　郵税八錢

本書は從來の節用集の外全く一機軸を出したるものにて附錄には無限七曜表○漢字假名遣○難字地名彙○疑似の漢字表○年號類集○日本海陸交通全圖を添ふ。

以下 諸大家著述目錄

壽王冠者　松居松葉　鈴木華邨書　定價三十錢　郵稅六錢

清風吹いて萬籟起り院々たる笛聲は暗に想夫戀の曲に通ふものゝ如し忽ちにして龍虎怒り百花笑ふの大雄篇

豐太閤裂封册　川尻寶岑　實價十五錢　郵稅四錢

明廷が慣用の手段を罵破して豪然地を蹴つて立ちたる豐太閤の勇略躍々紙上に在り眞箇昭代の好院本。

慷慨家列傳　近古　西山芝山作　實價十錢　郵稅四錢

佐久間象山渡邊華山以下木戸孝允に至る迄三十五人の勤王慷慨の志士が傳を載す文字簡潔にして然も粗漏ならず近古の烈士宛然紙上に活動するが如し。

戰時大探偵　長田偶得著　實價十五錢　郵稅四錢

日清戰爭に際し探偵の任務を懷して不幸の死を遂げたる傑士の列傳なり一讀毛髮そよぐの感あり。

臺灣陣　加藤紫芳　稻野年恒書　實價三十錢　郵稅六錢

鄭成功の事績を綴りたるもの筆力雄勁讀者をして勞歎として眼底古臺灣の風景を泛はしむ。

維新豪傑談　西村天囚　菊版美本　實價三十錢　郵稅六錢

逸傳十章、觀音堂白毛搶好丈夫薩摩下双俠猿が辻生磔古狂生古壯士無頼漢筆々鬼氣わり慷慨人に迫る。

錦の舞衣　圓朝口演　武内桂舟書　實價廿五錢　郵稅六錢

俠婦阪東お須賀の半生を說きたるもの情人狩野鞠信の爲に言ふ可らざるの苦を忍び節を汚して然も終に情人を救ひ得ず怒髮倒に天を衝いて仇敵を刺す一大慘話。

名人逸話　風流翁著　水野年方畫　實價廿五錢　郵稅六錢

狂歌師俳優を始め一道の名人上手と言はれたるもの一生の逸話を網羅し一讀頭をよるものあり行文簡易にして經妙なれば春夜夏日の好伴侶たり。

異鄕之友垣　末松謙澄　鈴木華邨書　實價三十錢　郵稅六錢

篤學產業の開發者たる吉田健作氏が海外留學中の事績を經とし末松謙澄氏及び自身を緯として小說躰にものしたるもの附錄又崑山の片玉愛讀すべきものの多し。

小說木枯　市川新藏　口畫桂舟中畫自筆　實價二十錢　郵稅四錢

學海翁の曰く未だ名優にして稗史小說を著はせしもの聞かざるなり其之有るは我新藏子より始むと唯此一辭假りて以て斯篇の評語に充つべし。

かたゝ戀　二葉亭著　鈴木華邨書　實價卅五錢　郵稅六錢

三年不鼓不鳴、深く世を晦ましたりし二葉亭主人の新著なり、ツルゲネフの面目眼底に泛ぶを覺ゆ。

小楠公　川尻寶岑　三島蕉窓書　實價廿五錢　郵稅四錢

小楠公の美名千古に冠たり精忠淋漓鬼神を泣かしむ今其事蹟を藝合して隱本躰となし娛樂の傍ら義勇奉公の正義を發揮せしむ。

學園花壇　諸大家作　三島蕉窓書　實價廿五錢　郵稅六錢

露伴子の當世文反古は大に世情を穿ち麗水生の再生豫讓は淒婉を極む浪六の千利休も亦好文字なり漣の京女即以下思案乙羽花瘦落氏の作頗る誦すべし。

なぼろし　湖處子作　久保田米仙書　實價十八錢　郵稅四錢

盲愛の母は身を妾婢に委して辭せず、性行高き青年は人生の濁涙に掩かれて溺れ、愛の犧牲となりたる少女は死に入りて復還らず、本書は湖處子が得意の佳什。

若葉　高瀨文淵　三島蕉窓書　實價廿五錢　郵稅六錢

詩の旨趣を散文もて寫したるもの題して詩篇若葉といふ幼時の情より着筆して許嫁の妻の死目に逢はざりしを怨む迄の一篇着想粹新筆々生色あり。

亂れ咲　丁々子作　寺崎廣業畫　實價十五錢　郵稅四錢

本書は前元老院議官田邊太一氏が其光風霽月を樂むの餘暇を以て寓意小說を篇したるもの其面白く珍らしきは氏の經歷を推しても知り得べし。

四之緒　四家合作　水野年方畫　實價二十錢　郵稅四錢

紅葉子の鷹料理眉山人の左褄柳漣子の白百合鈴花子の鐘聲夜半錄を收む恰も一朶の彩雲春花をどさすが如し

松菊餘影　名士遺蹟　實價廿五錢　郵稅六錢

或は古壯士たり或は維新の功臣たり時の內閣顧問として王政復興の偉業を完からしめたる木戸孝允侯の餘影を錄したるもの志士をして泣かしむものあり。

會津戰爭夢日誌　川尻寶岑　小林永興畫　實價二十錢　郵稅四錢

若松城覆滅の日少年の決死隊あり白虎軍といふ刀折れ矢盡きて城頭白晝の飜へるを見憤然眸を擧げて曰く誓つて周の粟を食はずと相刺して死す義膽惜むべし

大海原　末廣鐵腸　久保田米仙畫　實價卅八錢　郵稅六錢

大海原は政治小說なり外人の跋扈官吏の專橫志士貞婦の困難を始として迅雷大風惡魚大地震濤車の衝突獨立の大戰爭尊駿天驚地の大活劇を描き出したり。

本朝智惠袋

木版密書入
實價廿錢
郵稅四錢

本書は古今の滑稽談をあつめて春の夜のつれ〴〵夏の日のあきくしたる時の友として最も妙なり。

舶來智惠袋

木版密書入
實價廿錢
郵稅四錢

歐米各國先哲の滑稽奇談をあつめたるものにして其輕妙洒落なる本朝智惠袋とは更に其趣きを異にして妙なり。篇中往々本邦人の夢想にだもなき快話あり。

中村花痴 とぼれ萩

武内桂舟畫
實價廿五錢
郵稅六錢

晒し井寒紅梅の二篇を載す前者は男女の飽物語後者は一種悲慨の小說にして仁勇智義轉た人を感憤せしむべきものあり今嬢方の友として好敎訓たり。

肝付大佐 世界將來の海王

大山翠松畫
實價三十錢
郵稅六錢

歸國海軍士官の原著にして英人クラークの譯譯を以て長く歐洲に行はれたりしを今又重譯したるもの一篇の大意は英國の大海戰にして露が百年の長計をも縞めたり

六氏合作 籠枕

武内桂舟畫
實價三十錢
郵稅六錢

連山愚筆柳溪紫山紅葉風樂六氏の小說を錄したるもの篇々悉く金玉鳴つて鏘々の聲あり いづれ劣らぬ花蕚蒲

川崎紫山 日清海戰史

菊版美本
實價卅五錢
郵稅八錢

政治的歷史的眼光と精細なる調査よりして彼我海戰の狀況を敍したるもの眞にこれ龍嘯虎吼の概あり。

川崎紫山 日清陸戰史

紙數六百五十頁
實價七十五錢
郵稅十四錢

東洋の天雲凝り風怒り外交の局面大衝突を來すの源因より血雨洗さて平和破れ牙山の一戰より平壤旅順威海衛牛莊營口田庄臺の戰となり平和談判に至て全篇完結

仰天子作 蝦夷錦

渡邊省亭畫
定價廿五錢
郵稅六錢

壯士情人の衣を抱いて血淚天際に訴ふ、北海濤高く烟霧絶域を閉じて大志未だ成らずと雖も、昊天盍んぞ無情の久しからんや風雨晴るゝの時日月又光を弄ぶ。

青軒天彦 花相撲

武内桂舟畫
實價二十錢
郵稅四錢

「この眼」は青軒居士にして「錦の袈裟」は天彦子の作なり 綺想妙筆一讀卷を撮くに忍びず、彼は妍に是は艶に 眼れに圓扇の上るべきや行司は讀者の眼なり。

岡本昆石 瓜太郎物語

鮮齋永濯畫
實價四十錢
郵稅六錢

夢に鄙草の駒に乘り颯々然として異國漫遊のオドケ旅行、爪太郎の新夢想兵衛は野蠻文明半開の國々にいたり其奇に驚く諷刺小說。

さがのや 文の庫

鈴木華邨畫
實價卅五錢
郵稅六錢

これ嵯峨の舍主人數年の著作を集めたるもの、小說雜錄韻文紀行等紙數殆んど三百頁になんくとす。

懸賞小說 瀧口入道

水野年方畫
實價三十錢
郵稅六錢

時頼入道の平生を說きたるもの、これ當時世評嘖々たりし懸賞小說なり、匿名の著書は樗牛高山林次郎氏今文壇に雄飛する其人の處女作、

上野鶴川 發明家

自費畫
實價二十錢
郵稅六錢

志操確乎たる青年は貧に依つて志を變ぜず遂に義人の助を得て一大兵器を發明す全篇窮理的の大文字少年子弟をして轉た義勇の魂を發揮せしむ。

廿三階堂 好色二人息子

藤島華仙畫
實價十五錢
郵稅四錢

已に好色の二字を冠す其妖艶珍奇なる知るべきのみ著者は松原二十三階堂中昧の趣向秘めて語るべからずと雖も痴男妖婦の爲に驚弄せらるるの處噴飯絶仆。

柵瀨君著 朝鮮時事

久保田米仙畫
實價廿五錢
郵稅六錢

朝鮮の現狀は敢て詳述するの要なしと雖も其政治、法律、社會、風俗、慣例等を知らんと欲する人は須らく本書を一讀するの必要ある可し。

南翠外史 荒海實一

久保田米仙畫
實價三十錢
郵稅六錢

荒海實一と呼ばるゝ奇少年、坎坷淪落貧困の中に人となると雖も毅魄英邁偶ま某美人の幇助を得て偉業を海外にたつるの大快話。

南翠外史 朧月夜

富岡永洗畫
實價卅五錢
郵稅八錢

舉世凡て盜賊堂々たる華冑貴紳はこれ尤も盜の巧みなる者なり外貌端麗にして舉止閑雅なる者尤も長恠すべし諷刺的大小說。

新著 文車

三島蕉窓畫
實價三十錢
郵稅八錢

貧屬二筋道、法の阿字、一夜漬人魚甘鹽、等最も面白し蓋し黃表紙の脫胎ならんか。

小笠原大尉著 海戰日錄

若林海軍大尉畫
實價四十錢
郵稅六錢

舊唐津藩主小笠原子爵陸海軍大尉たり黃海の役高千穗分隊長として殊功あり本書は子爵自ら其大海戰の間に立ちて叱咤するの餘暇綺の錦腸を練りて海戰の記事を錄したるものの讀者をして惻然として肌に粟するの思ひあらしむ挿入する處の若林大尉の畫は蓋し日清海戰畫の巨擘なり彼我の各艦汪洋を突きて馳騁する狀宛然身其境に在るが如し長く此の度に供し奉る御嘉賞あらせられたる珍書なれば我國民たるも正に一讀すべきの書なり。

乙夜の覽

以心庵著 不鳴鵲 筒井年峰畫 實價三十錢 郵稅六錢

智恩院の宮が幕府の專横を憤慨して蹶然緇衣の袖を揮ふて立ちたりと雖も不幸にして中途に仆るゝ悲哀小說

中島遜波 東武士 富岡永洗畫 實價廿錢 郵稅四錢

朔風雪を催して喬松獨凋たり、幕末の諜士中島三郎助、君家の爲めに微軀を擲ちて、父子跳を列ねて五稜郭に仆るゝの間、忠僕貞婦卑惡淫交互錯雜妙映深し。

講談相撲 贔負競 日就社編 實價廿五錢 郵稅六錢

豪慢自負無學にして博士ぶる講釋師の失策或は邊話を收め更に轉じて男の內の男山搦大盜の音と共に八百八町に鳴り渡る其關脈の失策を面白くあつむるもの

上島笠山 釋元恭 淺井忠畫 實價廿五錢 郵稅六錢

快僧釋元恭、蹶然踏破す四百州、入ては哥老會の參謀たり、出ては宇宙の眞理を弄ぶ、其春陀落山頭獅子吼の一聲、頗る人意を强ふするもの、須く一讀すべし。

冷血翁著 近世偉人談 菊版美本 實價二十錢 郵稅四錢

匿名の作家筆を傳ふ上は跳て近世精忠の偉人を描く苦の痕海援隊女將軍女郎花六無齋梅の藏辻捕男閻東布衣御船鶴等濃士女丈夫十二人の面目彷彿紙上に橫はる

仁禮敬之 忠魂帖 寫眞版入 實價廿五錢 郵稅六錢

感泣して實悲しむ、これ日清戰役忠死の鑑、其凜烈たる風采は本書の內に在り、一讀其人に接するが如し。

海國 雙語六 若林大尉表紙畫 實價郵稅共 金十五錢

谷口政德氏が海國社の賛助を得て編纂したるもの筆者は渡部金秋氏にして表紙畫は軍人畫家の聞え高き若林大尉の特に寄贈せられたるもの少年子弟を益する多し

辰氣樓主人著 風流花圖 全一冊洋裝美本 實價十五錢 郵稅二錢

目次●總論●都々逸季寄●都々逸は新作をうたふべき乎●都々逸うたひ方●都々逸は誰にても作らるゝ事●妄言葉の事●切字の事●通よ言葉通はぬ言葉の事●都々逸の種類並十二躰の事●正躰●尻取●天地●折句●謎答●典故●文句入●翻譯●名所●地口●滑稽●字餘●題により都々逸を作る事●都々逸改良論●新作都々逸●附錄花ふゝき●千紫萬紅●いろは別新作六百餘題

須藤魯瓏 花柳お多福 鈴木華邨畫 チリメン表紙 實價廿錢

明治雜觀、お生粹、踊唄、都々逸、幾生柯保多羅經等悉く新作の飛花落葉、一讀忽ち通人粹人となる天下の御家寶泰平の世の好伴侶。

諸大家傑作 小說花籠 定價八錢 郵稅四錢

日本未來 全二冊 實價廿五錢 郵稅十錢

春之夕暮 一風子著 實價七錢 郵稅三錢

新三國史 實價十五錢 郵稅四錢 名士肖像入

清佛海戰日記 毛錄道人著 實價二十錢 郵稅四錢

北支那雜記 通譯官瀨戸晋著 實價十五錢 郵稅四錢

破窓之風琴 辻治之著 實價十三錢 郵稅四錢

魯敏遜漂流記 牛山鶴堂譯 實價十錢 郵稅四錢

禽獸世界 狐の裁判 井上勤譯 實價十八錢 郵稅六錢

世界未來記 齋山廣忠譯 實價二十五錢 郵稅十錢

卅五日間 空中旅行 井上勤譯 實價十八錢 郵稅六錢

萬里絕域 北極旅行 福田直彥譯 實價三十五錢 郵稅十錢

尊號美談 福地源一郎著 實價七錢 郵稅二錢

國會開設之前後 朱廣鏡鵬作 實價二十錢 郵稅四錢

合卷書籍目錄

半紙木版摺
實價郵税共
一冊金三十三錢

新作十二番

現今小說家の巨擘を以て目せらるゝ、蘆邨、紅葉、美妙、三昧、南新二、學海、香雪、得知、の諸氏か、各其月の如く花の如き詩想を練りて或は花の朝の妍を競ひ、或は月の夕の鬢を恣まゝにする一世の傑作を梓に上し、題して新作十二番といふは、以て弊堂得意の小說を出版したるの心なり。

一番 蘆邨著 勝
二番 紅葉山人著 此
三番 山田美妙著 歌
四番 宮崎三昧著 師
五番 南新二著 ぬ
六番 學海居士著 三
七番 香雪山人著 倉
八番 梅十蘆 鎌桂 武
九番 幸堂得知著 菜そ津
十番 閨 し味士姫の川
十一番 全
十二番 全

鐵道小說 鐵道滑稽小說 寒帷子

賊切 鳴神組

實價 郵税 二八錢
實價 郵税 二八錢
實價 郵税 二八錢

小說 漂流之佳人

小說 むら竹

全部廿卷合卷五冊
大凡三千頁
實價壹圓二十錢
運賃廿錢

蓬莱庭園村著

巢林子が肺肝より出で、江島屋が骨髓を搾、といへば胎内潛り觀せ物の口上めけどうそでも昧噌でも何でもないと作者御自身の手褒、弊堂考へますに夫れではまだ、風來山人一家の風潮を傳へ、また曲亭の曲、柳亭のやはらか味ありといふとを褒落されたりと存ぜられ候、全部御購求あつてよろしく御評判のほど願上候。

全部目錄

第一集 從第一卷 至第四卷
●玉簪●蓮の月●下宿屋●走馬燈●鏡（所●鵜山の石●松の雨●聖鐵み●深山木●納涼臺●藪椿●三筋町の遊人●人の噂

第二集 從第五卷 至第八卷
●今年竹●鶴が淵の藻●鰐の下顎●鳴鏑●病の原因●蜀恩に酬●影法師●メツカシヤ●軒の雫水●水の流れ●義理の樣●鶴譯小說目錄●福落の福落●跡取子息●時の用●操分道●人の行末●文の問遊●大阪の話●關の姥●機巧の果●面目玉●俳優氣質●夜の錢●つり燈●中よし●擬博多●時雨の含り●兒の手柏●鶴り草

第三集 從第九卷 至第十二卷
●煩惱之月●腹の子●大石眞虎の傳●當世寫眞鏡●噂の馬●綠の糸●めゝし娘●當世寫眞鏡●孝女の吟ひ●作り●糸の亂れ●當世寫眞鏡●苦樂●飛鳥扇●對鶴●紅葉●小菊鶴●新殺生石●川淵柳●臨めぐりの記●鑑原入浴の記●秩父紀行●勝州紀行●木曾道中記●もしほ草

第四集 從第十三卷 至第十六卷

第五集 從第十七卷 至第二十卷

聚芳十種

諸大家傑作
實價一卷十二錢
郵税各四錢
合卷全二冊
實價金壹圓
送料廿錢

一卷 香雪散人著 花の種 全一冊
二卷 紅葉山人著 新色懺悔 全一冊
三卷 山田美妙齋著 やたらじま 全一冊
四卷 南翠外史著 臥待月 全一冊
五卷 抱一庵主人著 闇中政治家 全一冊
六卷 廣津柳浪子著 糸のみだれ 全一冊
七卷 三昧道人著 戀の重荷 合卷 露伴子變化 全一冊
八卷 忍月居士著 黄金村 全一冊
九卷 幸堂得知著 さゝきげん 全一冊
十卷 竹の舍主人著 雪達摩 全一冊

文學世界

半紙木版摺彩色
實價八錢
郵税二錢宛

第一 紅葉山人作 命の安賣 全一冊 讀切
第二 山田美妙齋作 猿面冠者 全一冊 讀切
第三 二十三隅堂作 かくし妻 全一冊 讀切
第四 巖谷漣山人作 かたゝ糸 全一冊 讀切
第五 忍月居士作 辻占賣 全一冊 讀切
第六 正直正大夫作 かくれんぼ 全一冊 讀切
第七 江見水蔭作 野試合 全一冊 讀切
第八 松華庵主人作 ひつじかい 全一冊 讀切
第九 金子春夢作 今みゆき 全一冊 讀切
第十 乙羽庵主人作 おもひ川 全一冊 讀切
第十一 安田有り哉作 鬱友無し哉 神も佛も 全一冊 讀切
第十二 廣津柳浪作 いとし兒 全一冊 讀切

小説百家選

諸大家傑作
全部十五卷揃入
實價壹圓廿錢

第一卷　都の風（有馬頼徳）紅葉補　舞衣（太華）赤毛布（花筵）
第二卷　南蛮大王　匿水生
第三卷　紙指輪（完）三味道人　館輪（上）青軒居士
第四卷　折指輪（下）三味道人　柄輪（完）滝太郎稿
第五卷　金鳥美人（完）永廣井小柳　傑人子（完）滝沢石
第六卷　出世（完）衣笠（完）堀紫山　叙（完）滝遠乙羽
第七卷　紐頭巾（完）江見水蔭　銀杏（完）金子春浦
第八卷　常磐帯（完）須藤南翠
第九卷　鳥刀（上）宇田川文海　新宇治川（完）江見水蔭　朝子（完）市川新蔵
第十卷　水鳥（完）巌谷小波　深川（完）宇田川文海　蜜柑（下）中村花瘦　守（完）新川文海
第十一卷　草紅（完）紅葉山人　つら（完）国貞主人　局（完）国貞主人　前田晴山人　鹿鳴館（完）
第十二卷　不平（完）市川新山人　此羽（完）山人　大名（上）山居士　ぬ（完）草士　鐵（完）金蘭舟　五線譜（完）紫雲山人　十鐵（完）水生　貴族（完）
第十三卷　ぬくめ鳥（下）中村花瘦　ぬ（上）中村花瘦
第十四卷　女心（上）中村花瘦
第十五卷　手枕（完）有馬頼徳　女（完）水山橋人

遞送料廿錢
實價十二錢
郵税六錢

狂言百種

故河竹默阿彌作
全部合卷二冊
實價各六十五錢
遞送料各二十錢

第一號　村井長庵巧破傘　八幕　全一冊
第二號　玆江戸小腕遠引　三幕　全一冊
怪談月笠森　三幕
第三號　島衛月白浪　五幕　全一冊
淨瑠璃
第四號　木間星箱根鹿笛　四幕　全一冊
淨瑠璃
第五號　勸善懲惡孝子譽　五幕　全一冊
第六號　新皿屋舗月雨晴　三幕　全一冊
巌石碎濤布勢力　三幕
第七號　三人吉三廓初買　七幕　全一冊
第八號　水天宮利生深川　三幕　全一冊
身光於竹功

大通世界

幸堂得知標註
全三冊讀切
字入繪噺
實價廿七錢
郵税四錢

此書は幸堂得知標註字入小説黄表紙縮摹半紙木版彩色摺の表紙見返し美麗なる和本也。

今古名譽實錄

全十卷
合本上下二冊
一冊十二錢
郵税六十錢

稗史俗傳は嘘でかためる芝居講釋は空事多し世人已に今日正史なく實傳なきを慨む弊堂此度嚴覈の古寫本數十卷を得たれば之を模範として豪雄偉傑の眞傳を編し文章を平易にして大方に頒つといふ。

珍談倶樂部

長方形美本
實價各一冊十二錢
郵税各一冊四錢

詩人が胸に浮かんだ空中の樓閣、珍談倶樂部とは當家でござる、マア一寸入つて御覽下ろ、御家に隠れる小說家、文學者、藝術家も居れば、政治屋も居る、軍人も居る、俳優も驕者も、僧侶も宣教師も、醫者もてんしやもいやもうてんやわんやに大騒居蟲で、銘々面白いといふ面白い話、珍談といふ珍談ならべたてるみ内々で雜記いたして毎月一回づゝ出版仕る、尤もこれは倶樂部員には極内の儀でござれば、高い聲では申されぬ、下やによつて飛切の低い價かもつて發賣いたす、サア〳〵買てごらうとする。

第一卷目次
懺悔目錄……松葉子葉記
渚　水……同　人
あなあわれ……高畑雑九

第二卷目次
一死一生……枯林子
琴　心……田山花袋

高等探偵

●木戸少佐
●大毒藥
●戀の嫉刄

菊版製本各一冊
實價十八錢
郵税四錢
毎卷讀切

着想奇巧にして筆力勇健讀み去り讀み來つて其快言ふべからず天下の奇書と言ふも決して目負にあらざるなり。

歴史叢談

菊版美本全二冊
實價一冊二十五錢
郵税八錢宛

古談。事蹟。逸事等百餘件を集録せり

此編は兒童に歴史中の事蹟を知らしめ娯樂の中に我前賢潤遠爽快の流風遺韻を咀嚼せしめ高尚健全の氣風を涵養せんとの目的なり記する所一々道德を圖みず勧善懲惡を附會せずされど兒童の惱懊を涵潤にすべき不潔の事蹟を混入せず。今や眞正の國史の誕し來るべき辰に當れり將た珍奇なる古談の漸くに國民に遠ざかるべき時期なり國史の眞に赴くと共に此の編の無用に屬せざるは編輯者の信ずる所なり。

文界の風雲漸く廻りて花笑ひ鳥唄ふの好季節をトして本書は毎月一回發行の目的を以て江湖に出でたり書中の是非は敢て自から贊せず編輯主任の任は斯文の大家

新小說

幸田露伴子編輯
逐次發行
實價一冊十五錢
郵稅各二錢

幸田露伴子にあり其の選に上るもの元より吹々辯を費やすを要せざるなり試みに一本を購つて其の眞味を掬し玉へ。

珍書百種

宮崎三昧編輯校訂
逐次發行菊版美本
實價十二錢
郵稅四錢

此書一たび出でゝ鬼神哭せず山川撼かず天粟を降さず雨も降らず風も吹かず至て平穩上日和なり之を平凡といへば贓に平々凡々一向詰らぬ詮議なり但一たび此書を繙く者は再び手を釋く能はざる面白味あらん。

樂眞子後凋生合著

古今史譚

全五冊全部一千一百餘
餘實價每冊金三十錢
郵稅各六錢
合本全一冊實價金一圓
小包稅十五錢

古今史譚は樂眞後凋二先生が博引宏證廣く諸家の秘錄をかり之に自家の學識を加へて尤も眞率に古今の史乘の誤を正し落ちたるを補ひたるものなり。

寫眞畫報

全廿冊
號外一冊發行

初め戰國寫眞畫報と題し第一卷は明治二十七年十月より發行せる者にして小川一眞氏及堀健吉氏の寫眞彫刻版を用ひ日清韓の人物景色風俗戰爭等の圖畫を揭げ之れに說明を加へたる者にして寫眞彫刻版(Photo-Engraving)の挿圖ある雜誌の嚆矢なり特に其第五號には東京上野に於て行ひたる第一回觀捻會の寫眞のみを揭げ第十一號には京都名勝古跡及神社佛閣等を輯め第十二號は同地近傍近江大坂神戸播磨等の名所を輯め第十三號は大和奈良の名所を揭ぐ而して第十四號以下は範圍を擴張し世界の森羅萬象何くれとなく揭ぐる事となし政治家軍人豪商紳士美女藝人より萬國の地理風俗等を網羅す挿畫の精美に說明の詳悉を併せ見れば之を掌に指すが如し。

全部上下二卷特別減價金二圓
郵稅一冊一錢
五厘也
送料四十錢

探偵小說

實價一冊七錢
郵稅各四錢

合卷 全五冊 實價各金三十五錢 五卷金四十錢
一卷ヨリ四卷迄 郵稅各十二錢

一卷
一集 文字の力
二集 百萬圓
三集 電氣刑
四集 死の生命
五集 人の生命

二卷
六集 影法師
七集 足跡
八集 美人の指紋
九集 風流の醫者
十集 血染の釘

三卷
十一集 人形の片袖
十二集 怨の片袖
十三集 ひだりき
十四集 黑髮
十五集 銀行の秘密

四卷
十六集 無頭の屍
十七集 手形之針
十八集 火中の美人
十九集 指環
二十集 赫

五卷
廿一集 美人の石
廿二集 殘船
廿三集 中の殺人
廿四集 物言ふ死骸
廿五集 女の子
廿六集 親

完 探偵小說 尾

修身畫談

全十卷合本上下二冊菊版美本實價一冊廿五錢郵稅八錢

世間の修身書多しと雖も兒童の心に面白き者ならでは讀まざるの憂あり然りとて中庸を外れたる狂瀾唐人の行を記したる事は滑稽にして他の色に染み易き少年の天性に對して敎化の目的を誤まること尠からず此書は文明の時世に適當なる面白き立志修身の路を和漢洋の歷史寓言等に求め平易の文體を挿み假名を施し圖畫を挿み少年をして讀んで倦まざるの間に不知不識德性を養ふの目的にて編輯したるものなれば學校の敎師并に家庭の敎育を任とする父兄は每刊必ず一本を購ふて兒童の敎導に備へ給はんことを乞ふ。

幼稚園

四、六版美本
實價各七錢
郵稅各二錢

○支那征伐手柄はなし 全二冊
○歷史繪はなし 全二冊
○修身繪はなし 全二冊
○鳥づくし 全一冊
○獸づくし 全一冊

日清 交戰錄

日清交戰錄補遺

全二冊合本實價四拾錢特別減價三拾錢郵稅拾錢貳錢紙數六百頁挿畫數十葉

菊版全四十冊合本內冊挿畫二百除郵實價全部金二圓特別減價一圓四拾錢送料內拾錢

本書は京城の小戰より始り牙山平壤豐島海洋旅順威海衞等の海陸戰を詳記し大總督府凱旋を以て收まる補遺は新領地臺灣の授受より土匪掃蕩の戰記等一つも餘す處なし國民の血腥外人の觀察歐國の內情等部門を分つて記述し合本には總目錄を付して索引の便を與へ寫眞版は戰地の光景軍士の肖像を示し挿畫は桂舟永洗華邨三畫伯の健筆になる好畫題を描きたる眞畫なり。

美術畫畫類目錄

海戰畫帖

著者は常備艦隊の將校なり日清の役軍に從ひて怒濤鯨波の間に敵の堅艦と戰ふもの數次其彼我奮鬪の狀を直寫して水彩畫帖に上すもの實に數百葉の多きに至る弊堂特に氏に乞ひて之を岡村信陽堂に附して印行せしむ然れども製版頗る至難にして屢々挫折したりと雖も然も百難を排して第一卷**黃海**の卷を發兌し大いに大方の喝采をしの間敵艦漸く來り忽ち醜山倒海の大快戰を現じ來る第二卷**威海**の卷は我軍勝電艇夜溟を衝いて北洋水師殲滅の慘狀望み見るが如し。

若林大尉畫
全二冊
實價六十五錢宛
郵送料四錢宛

中野其明編輯 尾形流印譜

日本紙木版摺美本
郵價廿五錢
實價廿二錢
郵稅四錢

尾形流百圖

日本紙木版摺上下二冊
郵價六十錢
實價六十二錢
郵稅八錢

激戰中 平壤之眞景

寫眞版廿二圖入
全二冊各一冊
定價金四十錢

上卷目次

第一卷 東京宮城
第二卷 東京市街之景
第三卷 大阪進發
第四卷 海軍衛戍之景
第五卷 臨津江進軍
第六卷 黃州小戰
第七卷 英國軍士喜
第八卷 殉國軍士之墓
第九卷 王紀澤閣家滅亡
第十卷 紹樓里廳戰
第十一卷 野戰病院
第十二卷 林大尉

下卷目次

第一卷 山縣陸軍少將特使
第二卷 川村陸軍少將特使
第三卷 島津陸軍少將特使
第四卷 大野陸軍少將特使
第五卷 立見陸軍少將特使
第六卷 平壤城內見之圖
第七卷 船橋里望之圖
第八卷 混成旅團入城之圖
第九卷 混成旅團大同江之圖
第十卷 牡丹臺下流之圖
第十一卷 牡丹臺之眺望
第十二卷 從牡丹臺北城之眺望
第十三卷 從牡丹臺北城之眺望
第十四卷 從牡丹臺北城之眺望
第十五卷 從牡丹臺北城之眺望
第十六卷 從牡丹臺北城之眺望
第十七卷 從牡丹臺北城之眺望
第十八卷 從牡丹臺北城之眺望
第十九卷 從牡丹臺北城之眺望
第二十卷 從牡丹臺北城之眺望
第二十一卷 從牡丹臺北城之眺望
第二十二卷 從牡丹臺北城之眺望

寫眞版廿二圖入
全二冊各一冊
定價金四十錢

占領地眞景

盛京省之內
全一冊橫本
寫眞銅版廿圖
定價四十五錢八
郵稅四錢

第一卷 清國第二軍特使
第二卷 花園口帶二軍之戰
第三卷 金州城之戰
第四卷 金州城北面兵之戰
第五卷 金州城攻擊之圖
第六卷 金州城北門之圖
第七卷 金州城攻擊之圖
第八卷 金州城攻擊之圖
第九卷 金州城攻擊之圖
第十卷 金州城攻擊之圖
第十一卷 金州城攻擊之圖
第十二卷 金州城攻擊之圖

日清戰爭繪卷

鈴木華邨筆
遲塚麗水畧明
實價一冊廿五錢
郵稅金二錢

第一卷之目次 京城
第二卷之目次 豐島之卷
第三卷之目次 成歡之卷
第四卷之目次 牙山之卷
第五卷之目次 平壤之卷上
第六卷之目次 平壤之卷下
第七卷之目次 黃海之卷
第八卷之目次 遼東之卷
第九卷之目次 旅順之卷

從征畫稿

全四冊
淺井忠畫
大判六枚一冊
實價一冊三十錢
郵稅四錢

本書は畫伯淺井氏朝鮮平壤の役に第一軍に從軍し其後轉じて第二軍に從ひ花園口上陸以來旅順に至る數閲月作圖の原料に充んため日々目擊せる實況を寫生し積んで數百枚に上れり弊堂同氏に乞ひて修飾出版せんと思ひ立ちたれ共原圖は素と戰地倉卒の際筆を走らしめしものの之を修飾するは却て其趣致を滅却するの恐れありとて一も改竄する所なく直に着色石版に付したり故に製版大に困難にして漸く花園口より旅順迄の戰況數十枚を印刷して四卷となし廣く世の憂國の諸士に頒つ

美術名印部類

川崎千虎 松尾四郎 合著

國風畫の部
實價三十錢
郵稅四錢

此書は編者が多年苦心經營して本朝美術家の落款印影を描寫集聚したるものなれば其精密正確なること固より言を待たず先第一着に國風畫則ち巨勢春日土佐住吉板谷等の系圖を掲げたれば美術家たるもの及好古家たるもの必ず坐右に缺くべからざる一大珍書なり。

凱旋土産

●大元帥陛下御尊影 ●皇太子殿下御尊影

●特命大將小松宮殿下
●陸軍中將北白川宮殿下
●故陸軍大將有栖川宮殿下
●陸軍少將伏見宮殿下

●海陸將校 ●海軍大將西郷從道 ●陸軍大將山縣有朋 ●陸軍大將野津道貫 ●陸軍中將桂太郎 ●陸軍大將大山巖 ●陸軍中將山地元治 ●陸軍少將小川又次 ●陸軍少將大島義昌 ●內閣諸公 ●內閣總理大臣伊藤博文 ●內務大臣野村靖 ●司法大臣芳川顯正 ●外務大臣陸奥宗光 ●文部大臣西園寺公望 ●前大藏大臣渡邊國武 ●農商務大臣榎本武揚 ●前逓信大臣黑田清隆 ●特命全權公使井上馨

縮寫用美南寫眞版四洋紙一枚摺價壹圓半
光澤艷麗立一尺一寸
橫一尺七寸三分實價八錢郵稅二錢

美術書

○第一號 長澤蘆雪筆 丹鶴愛雛鳥之圖
○第二號 狩野越前守法眼元信筆 玄宗皇帝楊貴妃之圖
○第三號 不明者筆 處女粧盧舞僧之圖
○第四號 狩野雪信女子筆 美人之圖
○第五號 英一蝶筆 獅子舞遊兒之圖

竪軸大判竪一尺六寸幅一尺一寸
奉書極彩色
實價各金十二錢
郵稅二錢宛

美術世界

渡邊省亭畫
全部廿五卷
半紙摺美本

美術世界は木版彩色摺を以て極めて鮮明美麗に印刷する繪畫叢書に候へば彫工の苦心摺師の手際緻密巧妙を極めざるはなし隨つて摺高の加はるに從ひ版木の磨滅を免かれざるを以て板おろしの當座に摺立てたるものと數千部を摺立てたる後の物とは其の緻密巧妙の上に於ておのづから其出來榮を異にせざるを得ずされば彫刻彩色の精巧果して弊店の豫言に違はざるや否やは本書御一覽の上御判定下され速かに御注文ありて可成初刷の美麗精巧無類飛切なる向を御購求被下候樣豫め廣告仕候

各一冊實價三十錢郵稅一冊に付四錢郵券代用は壹割增

●全部廿五卷御注文は金七圓郵稅八拾錢

海軍畫話

石版彩色入
實價二十錢
郵稅四錢

海軍大尉若林欽君畫及說明

國民一般に海事思想に乏く海軍事理を解せざる如き傾向あるは弊堂の常に遺憾とする所なり今や文運日進の時に際し有識の士は海軍力の重大なる國防上片時も忽にすべからざるを知ると同時に帝國軍艦の猶少數にして邊海の防備未た完成せざるを嘆せずんはあらず然りと雖とも事の成るは成るの日に成るに非らず必す由て來る所あり大河の汪洋は源泉の滾々に起る帝國海軍の彫振擴張を望まんには表面的當局者の奮發企計に由ると雖とも又自ら國民の腦裏に海事教育を注射せしむるの必用あり。弊堂の本書を編せる實に此目的に出でたれば軍艦兵器は勿論水兵日常の勤務勤作艦內操練の一斑操砲水雷等一々描寫し兒童と雖とも一目瞭然直に海軍の事理に通ぜしめ以て他日の海國民の原素たらしめん事を期す

播本譯貫一

男女交合新論

全

百六十頁
金十錢
郵税四錢

本書は東京浅草瓢山住官なる者醫學なる類似偽板出版致し直に差止候へ共塩方賣捌へ直段の安さ爲め問り居り候哉も難計候間著者及出版所御吟味の上御買問遊なき樣御注意願上候

●目錄●第一交構は最も貴重すべし●第二愛情は情人と交構せんとの認みに出●第三交構は男女の横道愛情及び癖淫の精神たり●第四交構の適否に依て利害苦樂を異にす●第五交構の目的及び其方法●第六兩親の形狀性質等は其兒に遺傳す●第七父母たるべき者は未生兒の爲に其才德行狀を修養すべし●第八精神の愛は殿生に必要なり●第九精神の愛は淫慾を制し淫慾は精神の愛を壓す●第十精神の愛は淫慾より多の快樂を生ず●第十一精神の愛は淫慾を壓し淫慾は精神の愛を壓す●第十二戀愛する人には陰具物聯と獸慾する人には陰具聯結す●第十三愛情と交構とは必ず相伴ふ●第十四甲に愛情ありて乙と交構するは姦通なる事ぬるなり●第十五情慾は攝生に必要なり●第十六交構には男女とも慾に情慾を發動すべし●第十七情慾は女子にありて最も緊要なり●第十八女子は男子なして情慾を發動せしめ生殖の功を遂る義務を負ふ●第十九交構の時女子淫情を生ぜざれば男女共共害を受く●第廿男女淫情を交換せざれば激怒を生ず●第廿一多淫の夫に忠告の言●第廿二女子の情慾少き理由及び是を發生せしむる方法●第廿三孕胎の後は交構すべからず●第廿四新婚の夫妻に忠告の言●第廿五父母の誡に關て男兒或は女兒を生ト得べき法　附雙生子の說●第廿六孿生に可なる日時を論ず●第廿七交構に付ての注意●第二十八交構は全身の作用を促動す●第廿九精神の勝激と羞恥とは殿生に害あり●第廿情慾を節抑するは害あらざる說●第廿一亂婚の交構は爲すべからず●第廿二妻を害ふる害を論ず●第廿三遲孕は天理に背く事●第廿四妻神を授へる害を論ず●第廿五精神の愛は遲孕の眞法なる事●第廿六子なき原因及び其治法を論ず●第廿七陰部解剖の學を世に普及する事の必要なる說●第廿八精蟲の說●第廿九睾丸の構造及び其効用●第四十陰莖の構造及び其効用●第四十一尿道と攝護腺との構造及び其効用●第四十二龜頭と包皮との構造及び其効用●第四十三子宮の構造及び其効用●第四十四陰道の構造及び其効用●第四十五卵巢卵球卵管の構造其効力●第四十六男女の陰具は互に能く適合す●第四十七陰具の離離は全身の作用を起す●第四十八壓力は交構に必要なり●第四十九孕胎の說

通俗

男女自衛論

合卷　實價十八錢
一冊　郵税四錢

卷之一　房事の事
卷之二　手淫及多淫の害
卷之三　遺精生殖無功并に生殖不能の論
卷之四　瘵病、淋渴、尿道狹窄、勝眺眩衝、睾丸腫及勝抗帶の病
卷之五　婦人手淫の害

007291-000-3

121.8-H982K2H

藤田東湖

川崎　三郎／著

M30

ACK-1113